

第4章 飯田線（伊那市～伊那福岡、天竜峡～本長篠）

2024年7月16日（火）から7月22日（月）までの6泊7日の飯田線仕上げ旅（伊那福岡～伊那市、天竜峡～本長篠：総営業キロ111.1km（調整分含む））、天や神のご加護や地元の人々の多大な応援などを得て、無事、各駅舎立ち寄りにより踏破できる。当初の予定を少し変更もしたが、今回の旅も有言実行できホッとする。これで通算営業キロは、**1万5千883km（活動日数783日、日本の鉄道の57.3%、地球円周の39.7%）**となり、直近の目標である1万6千キロまで**117km**と迫った。



第1章 概要

※2024年7月21日（日）18時38分、飯田線踏破（本長篠駅：辰野～豊橋総営業キロ195.7km）

今回の旅も次の通り色なメイクドラマや特筆事項があった。

①日没などにより、門島から田本への道筋、とんでもない方向に進み緊急事態が発生する。しかし、第六感が働き、トマトやキュウリの出荷作業をしていた農家（泰阜村林富士夫様宅）にお邪魔し、お忙しい時間を割いて頂きタクシーを呼んでもらい、難局を打開する。ビニールハウスの灯りが打開の糸口となった。この農家に出会っていなければ、ドロ沼の道筋を行進するところだった。感謝また感謝。ここでも天や神のご加護を強く感じた。



※県道83号線から県道1号線に合流した際、反対の方向に進む。泰阜トンネル（反対の方向の証）

②宿泊先や歩く手順を配慮した旅行プランが功を奏した。地方の路線はダイヤも少ないし、宿も限定されるからである。

③地図やネットによる事前勉強が功を奏した。

④鉄道（川から少し上がった先）と幹線道路（山間）の間の高低差にかなりギャップがあり、随所で山登り山下りを余儀なくされた。



※門島駅への道筋

⑤駅と駅との間には山々があり、幹線道路を単純に歩くだけでは駅舎には立ち寄れず、鋸型に進む脇道の選定に苦労した。しかも、脇道が繋がっておらず、原則幹線道路まで戻ることを余儀なくされた。



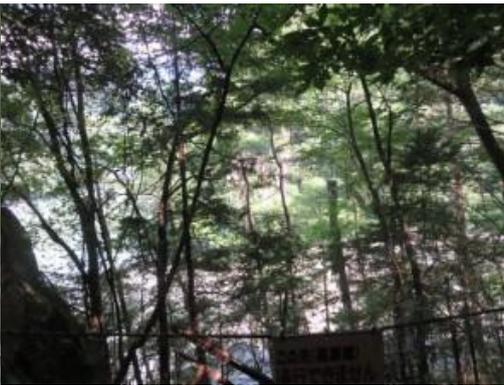
※金野駅への道筋

⑥天竜峡駅から中部天竜駅まで、金野駅（きんの）、田本駅、為栗駅（してぐり）など秘境駅が沢山あった。



※田本駅から県道1号線に出るまでの道筋

⑦小和田駅は数年前の風水害の影響で高瀬橋が寸断され（今も補修工事なし）、歩き鉄では立ち寄れないことを確認した。



※中井侍駅への路、高瀬橋決壊現場

⑧大嵐駅（おおぞれ）と水窪駅（みさくぼ）駅の間（営業キロ6.5km）に大原トンネル（5063m）があり、この区間鉄道つたい歩きは不可能と判断し、天竜川に沿って走る県道1号線にて大嵐駅から中部天竜駅までの区間（営業キロ

18.4 km) を歩くことで代用する。調整キロ 11.9 km。歩いても歩いても同じ光景（天竜川に沿った道筋）であったが、お陰で佐久間ダムに立ち寄ることができる。しかし、佐久間ダムの界限、真っ暗なトンネルが続き、スマホの灯り（福知山線の踏破の際も体験）で急場を凌ぐことを余儀なくされる。



※佐久間ダム

⑨沢山の出会いがあった。





※伊那市駅界隈の居酒屋”紋次郎”にて



※温田駅界隈の南宮温泉にて（3日間お世話になりました）



※小和田駅にて（新潟在住の撮り鉄ファンと）

⑩帰宅の途で名古屋から浜松までの区間、新幹線が不通となり、込み合った在来線（豊橋～浜松）でリカバリーする。

第2節 旅プラン

飯田線仕上げ旅（伊那市～伊那福岡：営業キロ 15.1、天竜峡～本長篠：84.1 km、

補正 11.9 km） 補正＝「大嵐～中部天竜（18.4 km）」－「大嵐～水窪（6.5 km）」

○2024年7月16日（火） 小雨／曇り

あずさ1号 八王子7:30 → 岡谷9:20

岡谷9:45 → 伊那福岡11:16

伊那福岡～小町屋～駒ヶ根～大田切～宮田～赤木～沢渡（さわんど）～下島
～伊那市（15.1 km）

エビスホテル泊（0265-72-3560）



○7月17日（水） 晴れ

伊那市 6:18 → 天竜峡 8:52

天竜峡～千代～金野～唐笠～門島～田本（12 km）

日没と路に迷いタクシーでホテルまで移動（住人のサポート）

温田泊（南宮温泉：0260-31-0056）



○7月18日(木) 晴れ

温田 8:05 → 大嵐 8:51

大嵐(おおぞれ)～小和田～中井侍～伊那小沢～鶯巣(うぐす)～平岡～為栗
(してぐり)

～温田(21.4 km)

温田泊

○7月19日(金) 晴れ

温田 7:19 → 中部天竜 8:16

中部天竜～佐久間～相月～城西～向市場～水窪(11.9 km)

水窪(みさくぼ) 15:56 → 田本 16:57

田本～温田(2.0 km)

温田泊

○7月20日(土) 晴れ

温田 8:05 → 大嵐 8:51

大嵐～中部天竜(18.4 km)

中部天竜 16:31 → 豊橋 18:24

豊橋泊(東横イン豊橋駅東口:0532-81-1045)



○7月21日（日） 晴れ

豊橋 6:00 → 中部天竜 7:42

中部天竜～下川合～早瀬～浦川～上市場～出馬（いずんま）～東栄～池場～三河川合～柿平～三河榎原～湯谷温泉～三河大野～本長篠（30.3 km）

本長篠 19:23 → 豊橋 20:16

豊橋泊

○7月22日（月） 晴れ

豊橋 6:00 → 小和田 8:08

小和田～中井侍の歩き挑戦（高瀬橋の決壊で歩けず）

小和田 10:11 → 中部天竜 10:41

伊那路2号 中部天竜 11:21 → 豊橋 12:31

新幹線保守車脱線事故（名古屋～浜松間不通）により在来線で豊橋から浜松まで移動

こだま 726号 浜松 14:25 → 新横浜 15:59

第3節 1日目：7月16日（火）：伊那福岡～伊那市 小雨／曇り

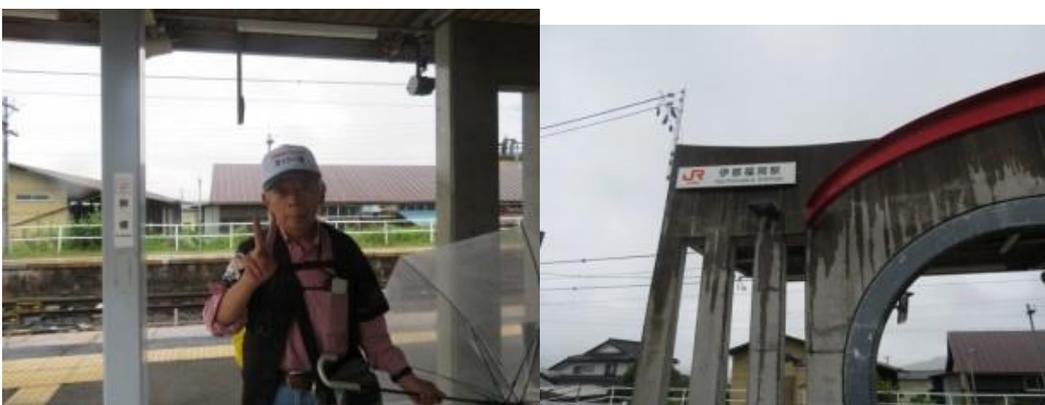
2024年7月16日（火）小雨／曇り、飯田線仕上げ旅の初日は、伊那福岡駅から伊那市駅までの営業キロ15.1kmに挑戦する。この区間は、本年5月の旅で踏破の予定であったが、過密スケジュールに加え、天竜峡から伊那福岡までの区間で、下山村駅、高遠原駅、伊那本郷駅への道筋などで悪戦苦闘したため、未踏破となり今回リベンジとなった。



※あずさ1号で岡谷まで移動



※各駅停車で伊那福岡駅まで移動



※伊那福岡駅

あずさ1号（今年に入り3回目活用）で岡谷迄行き、そこから各駅停車で伊那福岡まで、これまで踏破した沿線風景を懐かしみながら移動する。伊那福岡駅から伊那市駅までの各駅舎立ち寄り時刻は次の通り。

伊那福岡(11:26)～小町屋(12:18)～駒ヶ根(12:43)～大田切(13:36)～宮田(14:20)～赤木(14:50)～沢渡（さわんど、15:38）～下島(16:10)～伊那市(17:14)

①伊那福岡駅では小雨模様。この駅に到着するや否や、2024年5月17日（金）電車に乗る直前でサングラスをロストしたことを思い出す。これまでに何度も紛失事件を体験した。直ぐ思い出すのが、2008年3月、東海道本線垂井駅界隈の財布と青春18きっぷロストだろうか。もう一つは2015年6月宗谷本線でウォークマンの紛失だろうか。共通する点は、カメラ撮影に神経を費やし

た影響によるもので、持ち物への検証が疎かになったと自己弁明。11時41分、赤穂南小学校前を通過。この駅で鉄道に近づくが、線路に沿った道筋がないためバックする。国道153号線に合流する。11時48分、伊那バス駒ヶ根営業所前を通過。その先でアルプス南通りを右折して鉄道を跨ぐ辺り（11時56分）に来る。この道筋はNGと判断して再度国道153号線に戻る。10分位ロスタイムが生じる。12時10分、赤穂小学校前を通過。12時12分、鼠川を渡った先の交差点を右折する。本日はナビ調整（現在地点の掌握）を先日次男坊にやってもらったため、現在時点をすぐ掌握でき、脇道への道筋も掌握できた。12時18分、小町屋踏切を横切った先に小町屋駅があった。想定以上に伊那福岡駅から小町屋駅へも道筋は、本日の区間では難しかった。前回の旅で伊那福岡駅のアップは大正解であった。小町屋駅辺りで小雨模様から曇りマークとなる。





※小町屋駅への路



※小町屋駅

②再度、小町屋踏切を横切り、線路に沿った道筋を淡々と歩く。駒ヶ根駅には12時43分到着。駅前に水車という食堂があったので、25分位お邪魔する。昼食堂に入るのは、5月の七久保駅前の食堂以来である。昼食事をタイミングよくとるのは難しい。それ故、菓子パンなどを予め用意して臨んでいる。加えて、満腹になると眠たくなるし、夜の酒がまずくなるし、時間の節約にも繋がるので、ここ数年の歩きでは食堂立ち寄りを割愛して臨んでいる。



※駒ヶ根駅への路



※駒ヶ根駅



庫水車でさば味噌煮定食を頂く

③水車を出た先で13時13分薄日となる。13時18分、JR線下を潜り、鉄道の右側となる。途中、ふれあい花壇があった。大田切駅には13時36分到着する。



※ふれあい花壇を經由して大田切駅へ





※大田切駅

④13時39分、駒ヶ根市から宮田村（標高643m）となる。13時43分、大田切川を渡る。13時45分、わいわいハウス前を通過。14時15分、宮田小学校前を通過。宮田（みやだ）駅には14時20分到着。宮田駅にはウォシュレットのトイレがあった。このような設備がある駅舎は少ない。洋式のトイレでおればいい方。和式のトイレが大半。地方の鉄道沿線は、トイレ設備がないし、あっても経費節減でカギをかけて使用できないようにしている。





※わいわいハウスを經由し宮田駅へ



※宮田駅

⑤14時31分、里見踏切を横切り、鉄道の左側となる。14時46分、前方の空に青空が見えて来る。14時50分、赤木駅に到着。飯田方面の電車がやって来る。この駅で完全に雨上がる。



※赤木駅への路



※赤木駅

⑥14時59分、伊那市立南小学校前を通過。15時3分、紫陽花が見頃な道筋を通過。15時8分、伊那本線表木バス停前を通過。15時14分、森林からなるトンネルを潜る。15時22分、34歩ある森沢川橋を渡る。15時38分、西春近郵便局前を通過。15時41分、沢渡駅には15時41分到着。



※沢渡駅への路





※沢渡駅

⑦15時48分、沢渡踏切を渡ろうとしたところで、豊橋方面の列車がやって来る。鉄道の右側となる。15時56分、天田切橋を渡る。県道146号線（南箕輪沢渡線）に合流する。16時10分、下島踏切を横切り、鉄道の左側に行った先に下島駅があった。



※下島駅への路



※下島駅

⑧16時21分、路線バスと対面する。16時46分、45歩ある小黒橋を渡る。伊那市の市街地に入る。16時56分、伊那バス本社前を通過。17時8分、本日宿泊するエビスホテル前を通過。17時12分、伊那バスターミ（VOL77ナル前を通過。伊那市駅には17時14分到着。本日、お邪魔予定の居酒屋”紋次郎”が本日営業しているかどうか確認して、エビスホテルを17時30分チェックイン。



※エビスホテル、伊那バスターミナルを經由して伊那市駅へ



※伊那市駅

⑨ホテルで汗を流し寛いだ後、6時50分、紋次郎に参上する。店には本日誰もおらず、水入らずの状態、マスター、女将さんと3名で5月16日（木）以来の旧交を温める機会を得る。本日持参したA4伴カッシーちらし（Vo177）を額縁に入れて頂く。また、懇談の中で今後の歩きへの激励も頂く。感謝感激で一杯となる。約2時間の楽しいひと時があつという間に過ぎ去る。



※紋次郎へ

第4節 2日目：7月17日（水）：天竜峡～田本扱い 晴れ

2024年7月17日（水）晴れ、飯田線仕上げ旅の2日目は、当初は天竜峡駅から温田駅までの挑戦（営業キロ14km）であったが、千代駅や金野駅への迂回に加え、金野駅や唐笠駅への道筋、誤った方向に進んでロスタイムが生じたり、県道83号線と県道1号線との合流時点で反対方向に進むという事態となり下方修正となった。当初はホテルで朝食をとった後、伊那市7時42分発で天竜峡に向かう予定であったが、不測の事態に備え、6時18分発の電車に切り替える。これに伴い天竜峡到着時刻は10時6分から8時52分と1時間14分早まるが、それでもNGとなった。本日の区間が如何に難しかったかの証でもある。



※エビスホテルを後にする



※伊那市駅





※伊那市から天竜峡まで移動

昨日の踏破で、辰野駅から天竜峡駅までが繋がった。車窓から懐かしい風景を堪能しながら天竜峡駅まで移動する。沢渡、駒ヶ根、飯島、伊那田島手前、伊那大島、元善光寺、飯田、伊奈八幡、時又で辰野方面（下り）に向かう電車と離合がある。伊那大島駅辺りで2両編成車両は満席状態となる。伊那上郡駅で沢山の高校生が下車する。その他、桜町駅、飯田駅、鼎駅でも下車あり。



※天竜峡駅

天竜峡駅に到着するや否や、千代駅と金野駅への道筋について職員さんにお伺いする。「千代駅は高速道路下を潜った先を右折した道筋が分かりやすいですよ」と教えて頂く。また、金野駅については「金野生活改良センター交差点を右折し、山道を進めば行けます」と教えて頂く。金野駅への道筋は事前勉強した通りであったが、千代駅への道筋は高速道路下を潜った先ではない道筋であったので助かった。

本日の各駅舎到着時刻は次の通り。

天竜峡(9:04)～千代(10:03)～金野(12:30)～唐笠(15:09)～門島(17:45)～田本(?)

①9時9分より153歩ある天竜川を渡る。9時17分、県道1号線(飯田富山佐久間線)に合流する。9時22分、坂道を上る。9時35分下る。9時39分より、169歩ある紅葉橋(紅葉川)を渡る。この橋から右手方向にJR鉄橋が見え安堵する。9時44分、高速道路下を潜った先で右折する。その先に千代駅への案内標識(9時48分)があった。くねくねした道筋を歩く。暫く歩くと流れが速い川がある。この川に沿って歩く。千代駅には10時3分到着。1.4kmの営業キロに約1時間要する。静寂で心地よい環境の中に千代駅はあった。しかし、谷底のため、山の中腹にある県道1号線に出るまでの道筋は険しい上り坂となった。



※天竜峡駅前



※天竜川を渡り、その先の交差点から県道1号線を歩く



※県道 1 号線から脇道を歩く



※小川を下る





※千代駅



※坂道を上る

②5分位歩いた先で二又があり、降りてきた道筋とは異なる道筋を歩く。右手には流れの速い川があった。10時12分、坂道を上る道筋を通過。10時26分、やっと県道1号線に合流する。10時41分、飯田市立千栄小学校前を通過。10時42分、千栄という地名を通過。11時2分、米峰大橋を渡った先で右折するが、5分位歩いた先でネッにて確認。その結果誤った道筋と判明し再度県道1号線に戻る。15分位ロスタイムが生じる。泰阜（やすおか）村の表記となる。11時21分より、ちたい大橋をわたる。11時38分、金野生活改良センター交差点に到達。ここから右折し脇道に入る。この交差点にも金野駅への案内板があった。11時45分、重要文化財諏訪社二棟前を下る。ここから下りの

山道をくねくねと歩く。12時23分より30m位ある米川橋を渡る。金野駅には12時30分到着。営業キロ1.2kmに2時間半位要する。



※県道1号線に合流、この橋でリカバリー



※改良センター交差点への路



※この交差点から脇道に入る



※諏訪社下を下る



※山道を下る



※金野駅、米川橋

③12時35分より、再度米川橋を渡る。12時46分、民家への道筋がある二又交差点には12時46分到着。13時12分、車2台と対面する。諏訪社前には13時25分通過。13時30分、改良センター交差点には13時30分に到着。ここから金野駅までの所要時間は1時間52分要す。13時41分、紫陽花が見頃な道路を通過する。13時50分、県道1号線と県道64号線が合流する交差点に到達。この交差点から100m行った先で二又があり、標識の解釈を誤り、直進すべきところ左折する。坂道を15分上った先で、ネットで現在地を確認する。結果遠回りの道筋と判明し、坂を下る。誤った交差点には14時26分戻る。約30分ロスタイムが生じる。左手に川がある道筋に沿って坂を下る。遠くに天竜川を横切る緑色の橋が見えて来る。この橋の手前を下った先に唐笠駅（15時9分）があった。この駅の手前で大事な地図をロストするがになるが、道筋に落ちているのを発見し胸を撫でおろす。



※県道 1 号線合流への路



※県道 1 号線・64 号線の合流までの路



※誤った道筋（右手川）から正しい道筋（左手川）



※唐笠駅への路



※唐笠駅

④15時16分より262歩ある天竜川を渡る。15時46分、国道151号線に合流する。15時51分より、粒良脇トンネル（全長547m）を通過する。16時10分より93歩ある玉洞橋を渡る。16時33分、ひさわ薬局前を通過。16時53分、国道151号を左折し脇道に入る。少し歩いた先で自分が想定した道筋と異なっていたので右往左往する。住人からとにかく山を真っ直ぐ下れば行けるとのことで安堵する。それでも心配だったので、住人にお会いするごとに門島駅への道筋を確認する。やっと谷に到達するが、鉄道はどの辺りを走っているか判明できず右往左往する。スマホのナビで現在地を確認し、門島駅への道筋が判明する。250歩ある赤い櫓橋（やぐら）を渡る。橋を渡った先の高台に門島駅（17時45分）があった。



※国道 151 号線合流への路



※粒良脇トンネルから脇道までの路



※脇道をひたすら下る、櫛橋



※門島駅



※明島踏切を横切り、くねくねした山道を上り、県道1号線に合流（この交差点を右折すべきところ左折へ）



※泰阜トンネル

⑤門島駅でアップも考えたが、3.7 km先にある田本は秘境駅のため本日の立ち寄りには困難かも知れないが、門島駅から5.7 kmにある温田駅には19時半位には到着できるのではないかと判断し歩きを継続する。18時3分、明島踏切を横切り鉄道の右側となる。ここから少し行った先で、門島でアップすべきであったと後悔する。県道83号線の山道を上る。やっと18時43分、国道1号線に合流する。ここでどう勘違いしたのか温田方面と反対方向に進み迷路に突入。18時48分より232mある泰阜トンネルを通過する。暗闇の中、現在場所を確認しようとするが一向に判明できず。やっと泰阜村平島田という地名で灯りが見えてくる。19時30分頃、咄嗟の判断で農家の庭先でトマトと胡瓜の出荷作

業していた林様宅にお邪魔し、マルチタクシーを呼んで頂き、難局を開く。19時50分、ホテルから本日の状況について確認の電話がある。タクシーの待ち時間の間、林様とウォーキングの話で一杯となる。会話の中で約4半世紀の実績を記載したカッシーちゃんが大きな援軍になった。林様には感謝また感謝であった。





※誤った境界の地図

⑥電話して20分位してタクシーがやって来る。ホテルには20時半到着。汗を流したあと、食事となるが、軽い熱中症にかかったのか、せっかくのご馳走も喉に通らずバタンキューの一日となった。今日は色な出来事があったが、地元の人のお世話になり対処できた。天や神のご加護を強く感じる一日となった。